

新たな取組を確かなものへ

教頭 佐藤 大

今年度はコロナウイルス感染症予防の観点から、これまで当たり前に行われてきた教育活動を大幅に見直すことの多い1年となりました。前期の職場実習は全て校内での活動になり、職場や福祉サービス事業所の見学も予定通りに行うことが難しいことが多くありました。そのような状況においても、一人一人の学びが充実するように、三密を避けた見学や体験、ICT機器を活用しての学習など、多くの工夫をしながら学習を組み立ててきました。



また、今年度本校は、特別支援学校就労・職場定着促進事業の県北の推進拠点校となり、「卒業生の職場定着に関わる支援」「中学部段階からの職業教育の充実」について、深く考える機会をいただきました。そのことで、本校で検討し取り組んだこと、他校からの情報や関係機関からのご助言から、多くのことを学ぶことができました。以下に中学部の取組について紹介しておりますが、改めて卒業後の職場定着は、学校の追指導や関係機関と連携したフォローアップだけでなく、中学部段階からの系統的な職業教育が大切であることを痛感させられました。

今年度の成果と課題を踏まえ、次年度はさらなる職業教育の充実を目指し、全職員で取り組んでいきたいと考えております。

能代山本地区「企業・業種ガイダンス」への参加

高等部2年生が、能代市文化会館で行われた『能代山本地区「企業・業種ガイダンス」』に、職業の学習の一環として参加しました。

ガイダンスを通して、能代山本地区にどのような企業や業種があるかを知り、仕事に対する理解を深めることができました。また、参加企業のプレゼンテーションから、実際の現場ではどのような人材を雇用したいと考えているのかを知り、そこから「現在の自分の強み」と「今後さらにどんな努力をするべきか」を生徒一人一人が今一度具体的に考える機会となりました。

生徒たちからは、「自分たちの身近な地域に様々な会社があることが分かり、今後進路先を考えていく上で、ガイダンスで教えていただいた情報を参考にしていきたい」といった感想が聞かれました。

【各企業のプレゼンテーションを受ける様子】



中学部段階からの職業教育の充実に向けて

今年度、本校は県教育委員会の「令和2年度特別支援学校就労・職場定着促進事業」の推進拠点校となっており、中学部段階からの職業教育の充実に向けて、主に作業学習や生活単元学習で高等部進学後とその先の将来を見据えた学習活動を設定し、取り組んできました。

1年間の取組から、「作業学習に取り組む姿勢や態度の向上」「目標を意識し、進んで根気強く取り組む姿」が見られ、自分から挨拶をしたり、きまりを守って行動したりする姿がたくさん見られるようになりました。



生活単元学習（職場見学）～メモをしながら説明を聞いています



作業学習（木工班）～手元を良く見て集中して取り組んでいます

◇作業学習や進路学習を通してどんなことができるようになったか、今後頑張りたいことは何かインタビューしました。



中1 池端萩さん

気持ちのコントロールができるようになってきました。
高等部を卒業したら介護の仕事に就きたいです。
今は学校が楽しいです。



中1 佐藤美優さん

職場体験で仕事を実際にやってみて、仕事の楽しさや大変さが分かり、知っている先輩も頑張っていたし、自分も頑張って仕事ができるようになりたいと思いました。



中3 佐藤峻介さん

高等部の作業学習を見学して、（報告の大切さが分かり）自分も報告ができるようになりました。農園芸班で集中力もつきました。

◇中学部段階で身に付けたい力（生徒・保護者のアンケートから）

身辺自立、挨拶、分からないことは自分から質問したり、感謝の言葉を伝えたりするコミュニケーション力、体力、生活習慣の確立等



◆日常生活場面でも、学んだことを自分から発揮できるよう、今後も『自分でできることは自分で』を大事にしながらか学校と家庭との連携を図り、丁寧に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いいたします。